



16期・森田 康平さんの喫茶店 珈琲貴族

珈琲貴族

昭和の雰囲気を残した空間。サイフォンで淹れた珈琲を味わって頂けます。お一人様でもご利用しやすい喫煙出来る喫茶店。

所在地: 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 141-2

開業: 1977年7月

代表電話番号: 045(871)9338

フェイスブック: <https://www.facebook.com/coffeekizoku>

Instagram: <https://www.instagram.com/coffeekizoku1978/>

アクセス: JR戸塚駅西口から徒歩8分
最寄りバス停留所 消防署前



お店のおすすめ

UCC珈琲を使用 ナポリタン 貴族トーストなどがあります。

喫茶店

営業日 営業時間

月～金 AM 8:00
～PM 10:00

土 AM 8:00
～PM 8:00

定休日 祝日および日曜日



※全席喫煙店の為 20歳未満のご入店が法律上禁止されています。



【経営者ご紹介】

森田 康平さん

平成05(1993)年3月・第16期卒業(3年1組・依田級)

帰宅部

自転車通学の距離だったので出席率は、高かったのですが遅刻率が高く時間にルーズでした。金井高校の雰囲気のように友達と仲良くのんびりと過ごしました。学校終わりに自店のお手伝いをしていました。

—— 「わたしの店・会社」第2弾は、16期・森田康平さんの喫茶店・珈琲貴族をご紹介します。どうぞよろしくお願いします。

森田> よろしくお願いします。

—— まず、こちらの喫茶店・珈琲貴族はどんなお店なのか、教えてください。

森田> 地元大学生が集まれる場所、一人でもご利用しやすい空間、そしてたばこが吸える喫茶店です。

—— お店は1977年7月に開業されたそうですが、それはどのような経緯だったのですか。

森田> 父が脱サラをして、趣味の珈琲を仕事にと始めました。当時は、戸塚駅はまだ東海道線が停まらず、横須賀線だけだったこともあり、最初は父が勉強していた喫茶店【葦】のある平塚駅周辺を考えていましたが、人口が増えるであろうと予測して戸塚駅にしたそうです。



——— お店の名前の由来を教えてください。

森田> 父が父の友達と一緒に考えました。父は、友人と車でドライブをしていた時に、語呂だとか、雰囲気の良いとかで決まったと言っています。今でこそ東京に有名な珈琲貴族というお店がありますが、創業も同じくらいでネットも無い時代でしたので、同名なのは偶然だと思います。

——— 森田さん自身は、どのような経緯でこちらのお店をやられるようになったのですか。

森田> 学生の頃からお店の手伝いをしていましたが、その時は両親を手助けしたいという気持ちからでした。私は接客・サービスが好きだったので、地元の明治学院大学を卒業後、飲食店に従事したのですが、食品卸売業に転職してからは、将来を見据えて経理職に就きました。父のお店を継いだのは40歳を過ぎてからでしたが、喫茶店のマスターという職種は、一般的な仕事と違い、それまでの経験や色々な社会勉強が必要な仕事です。そのため、自分自身の気持ちや自信と、父の仕事上の体力の問題とのバランスが、このタイミングだったと思っています。

——— こちらのお店のコンセプトなどありましたら教えてください。また、どのようなお店にしたいと考えていらっしゃいますか。

森田> 開店当初から喫煙可能でしたので、メニュー等も含め、そのまま変えないようにしています。当時より高校・大学の方々、近隣会社や商店会および近隣住民の方々に支えられているお店ですので、懐かしくもあり落ち着ける場所を提供し続けていきたいです。

——— こちらのお店をどのような方に利用していただきたいと考えていらっしゃいますか。

森田> 喫煙店ということもあり限られた方の利用となってしまいますが、私が高校生当時にお世話になった金井高校・明治学院大学の先輩方に私が良くして頂いたように、今度は後輩にあたる方々を含め少しでも恩返しが出来ればと思っています。

——— 今までやってこられた中で印象に残っているエピソードなどありましたら、お聞かせください。

森田> 昔は、店内でタバコ販売もしていました。ご常連様それぞれの指定銘柄のタバコを、珈琲と一緒にモーニング帯にお持ちしたことが懐かしく感じられます。

——— こちらのお店の自慢できるメニューはどんなメニューですか。

森田> 開店当初から目玉商品にしている、高さのある甘い“貴族トースト”です。先に出た平塚駅にある葦さんから父が開業時に許可を頂き、“貴族トースト”としてメニューに載せました。壁に掲げられたメニューは、当時からほとんど変わっていません。私自身も高校生の頃から、お店が大変な時や自分の時間が空いている時、社会人になっても節目、節目で手伝っていたので、あまり意識せずに、当たり前のように受け継いだ感じです。



——— 今後、こちらのお店をどのようにしていきたいと考えていらっしゃいますか。

森田> 店舗を大きくしたり、数を増やしたりするのではなく、自分の手の届く範囲で営業を続けることが出来たら幸いです。また、地域に助けられてきたので、地域活動に少しでも貢献出来たらと考えています。「地域に助けられてきた」というのは、今までお店をご利用下さった方達のこと、それが近隣という地域密着のお客様だということ、そのお客様のおかげで今の自分がいるということ、特に喫煙者のおかげだと感じています。私自身は、タバコを吸いませんが、今まで吸っていた人が吸わなくなった途端にタバコが害悪だと手のひら返しをするかともいっちゃいます。タバコ自体は、法律上、禁止になっていませんし、禁煙場所を法律上、定めたにすぎません。喫煙者を擁護している訳ではないですが、マイノリティーを非難することには心が痛みます。最近は、特にその気持ちが強くなっているので、禁煙としないこの店が少ない受け皿の一つになれば良いなと思っています。

——— 高校時代の思い出等ありましたら、お聞かせください。

森田> 金井祭や体育祭といった学校行事の思い出も沢山ありますが、それ以外ですと近くの金井公園そばに当時あった【あらい市場】の【あらい食堂】のごはんの量がとても多く、友達と食べに行った思い出があります。

——— 高校時代の経験で今に役立っていることがありましたら、教えてください。

森田> 自由な校風と穏やかな雰囲気でしたのでその反面、自分を律するという自己責任の大切さを学びました。とりとめのないことの積み重ねが、高校生時代の自分を形成したと思います。友達との付き合いかたを始めとして、先

生方からの授業を通じた人生経験が今の自分の糧になっています。大正中学時代は、3人以上との会話が苦手でしたにも関わらず、友達と気兼ねなく話せるようになったりしました。高校のグループでの東京遠足もありました。その時、苦手だった外食が出来るようになった私の思い出の行事です。今は高校時代の仲間とも疎遠になってしまいましたが、会いたいなと思います。「人が大事、人の大切さ」という言葉は前から理解していても、歳を重ねるにつれて本当に人との付き合いの大切さが身に染みんでいます。

----- この記事を読んでらっしゃる同窓生の方にメッセージなどあればお願いします。

森田> ちょうど50周年という節目の年で、多くのイベント・行事を行っているので、自分がお世話になった母校の手助けが出来たらという思いがあります。在校生や今後入学する生徒の方々の為になることを少しでも、皆様にもお願いしたいと思います。

----- ご協力ありがとうございました。

